

# 横浜有数の収集運搬業を ベースに古紙をリサイクル

横浜市を拠点に廃棄物収集運搬業を展開する武松商事は、創業から約60年、会社設立から35年という長い歴史を持つ。現在は約150台の収集車両を保有し、とりわけ事業系一般廃棄物の取り扱い量は市内有数の規模となっている。

収集運搬業と並行して同社が力を入れてきたのが、各種のリサイクル事業。本格的には、協同組合方式による1984年木くずの燃料化事業を立ち上げたのを皮切りに、同じく協同組合として1992年から始めた廃家電製品のシュレッダー事業、昨年からは本格化した食品残さの飼料化事業、さらに従来から行っていた廃プラスチックのリサイクル事業を今年からバージョンアップさせ、顧

客のニーズに対応したりリサイクル事業を手がけてきた。そうした中で、古紙については収集運搬業の傍ら、もともと専ら物として回収し、古紙問屋に収めていたが、1990年代に入ってから取り扱

い量が増えてきたが、当時の古紙問屋は日曜・祝日が休みだったため、回収しても卸す場所が無く、安定したリサイクルシステムを構築するため、問屋を通さずに



企業や集団回収団体から集めてきた古紙を分類する



鳥浜古紙リサイクル工場

武松商事(株)(神奈川県横浜市)

企業概要●武松商事株

設立	1976年
資本金	4800万円
代表取締役	武松ひで
本社	神奈川県横浜市
営業所・工場	横浜市・川崎市・中井町(神奈川県)、香取市(千葉県)
従業員数	270人
事業内容	一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、一般区域貨物自動車運送業、製紙・非鉄・製銅原料の売買業務、養豚業

リサイクルのルートに乗せる現在の方法を取るようになった。

当初は同社単独ではなく、1993年に設立した横浜市ダスト開発協同組合として、市内の神奈川県に古紙リサイクル工場を設置。250馬力と150馬力のペーラー、計2台を揃え、同社をはじめ4社の組合員が回収した古紙を圧縮梱包して出荷できる体制を整えた。そして2004年には、武松商事として金沢区に



250馬力のペーラー設備を備える

鳥浜古紙リサイクル工場を設置。300坪の敷地に250馬力のペーラー設備を揃え、組合の工場と合わせて2拠点の体制に移行した。

## 自社回収の古紙を 中心に受け入れ

鳥浜工場では現在、主要古紙である新聞、雑誌、段ボールをはじめ、ミックスペーパーやシュレッダーした紙、付箋紙なども受け入れていて、量的には段ボールが全体の8割、9割を占めており、段ボールだけで14台の自社便を使って回収している。シュレッダー古紙については、車両搭載型のシュレッダーを使った機密処理の出張細断サービスによって回収して行く分も多い。

受け入れる古紙の大半は、収集運搬業務全般で取引のある排出事業所からのものだが、同社は横浜市が推進している資源集団回収の回収業者としても登録しており、現在は130、140団体と契約して家庭系の古紙を回収している。

工場に搬入された古紙は、作業員の手で品目ごとに選別したうえで、約1tずつのペールに圧縮梱包していく。段ボールと新聞以外の古紙に

ついては、質のよい製紙原料として出荷できるよう雑誌やコピー用紙、ミックスペーパーを最適な割合でブレンドしている。

圧縮をした段階で段ボールと新聞、その他の紙の3種類のペールが出来上がり、それぞれ段ボール、再生紙、100%古紙のティッシュペーパー、トイレットペーパーに生まれ変わる。出荷量は1日当たり約50、100t。出荷先は、

約4割が静岡県内などの国内製紙工場で、6割は輸出を行っている。再生品のトイレットペーパーについては、要望に応じて排出元の企業や集団回収に販売するケースもある。

工場はスペースが限られているため、市況に応じてペールを保管しておくなどの調整が難しいが、「問屋としてはなく、自社で集めた古紙を確実にリサイクルしていくことが重要」(同社担当者)という。

鳥浜工場ではこのほか不要になった衣類も古布



段ボールの回収には、自社の専用車を14台保有している

として受け入れており、古着としてのリユース用に海外に輸出しているほか、ウエスとして再利用するルートに乗せている。

なお、2009年に同社は、本社・幸浦営業所・泉営業所とともに、鳥浜古紙リサイクル工場でエコアクシオン21の認証を取得している。W(本誌・新倉)